

農業共済新聞 千葉版

掲載号	7 月 2 週号	
筆者	所属	農林総合研究センター
	職名及び氏名	研究員 町田剛史
題名	加工・業務用キャベツで新たな産地づくり	
備考	【図説明】加工・業務用キャベツの作型と適品種	

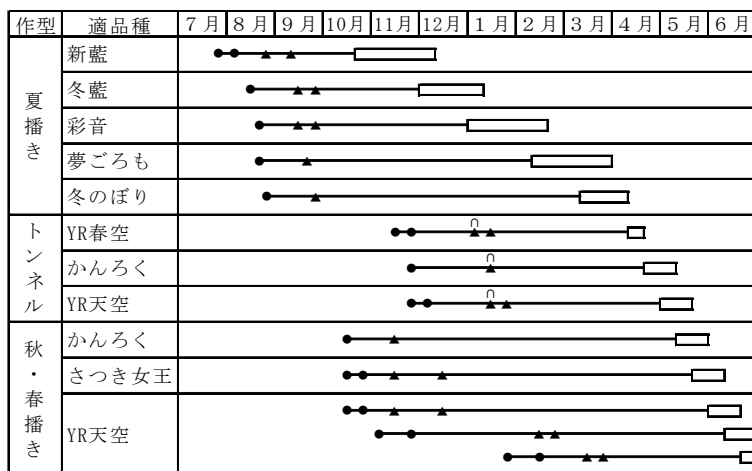
【本文】

秋どりから初夏どりまで全国屈指のキャベツ産地である本県では、春系キャベツが主に生産されています。春系キャベツは、みずみずしく柔らかい特性から、家計消費を中心に好評を得てきました。一方、サラダ、とんかつの付合わせ、冷凍のギョウザやお好み焼き等として、キャベツは流通量の50%以上が加工・業務用となっています。加工・業務用には、せん切りにしたときの歩留まりやボリューム感、加熱調理したときに水っぽくならないといった性質が望まれ、寒玉系といわれるしっかり締まるキャベツが適します。

寒玉系キャベツを秋から初夏の長期にわたって出荷するには、図のように、いくつかの作型を組み合わせ、その時期に適した品種を使い分けます。夏播き栽培は、品種の早晚性によって11～3月までをまかなう作型です。11月どりには早生で耐暑性の強い性質が望まれる一方で、2～3月どりには割れにくく、寒さに強い必要があります。収穫時期によって適した品種は異なります。秋・春播き栽培は5月下旬以降が収穫時期となりますが、早い時期ほど本県産の需要が多いため、早生で晩抽性の強い品種が望まれます。さらに、露地栽培の端境期と

なる4～5月中旬どりには、トンネル栽培を行います。

農林総合研究センターでは、11～6月の各収穫時期に適した品種の選定やトンネルを用いた4～5月どり栽培法の開発を行い、加工・業務用キャベツ生産を支援しています。海匝、君津、山武等の県内各所で業務用キャベツの新たな産地



凡例 ●：播種 ▲：定植 □：収穫 ◻：トンネル

図 加工・業務用キャベツの作型と主な適品種

づくりが活発化してきており、この動きは今後も拡大していく見込みです。